



舞鶴市議会最年少議員

かも だ

鴨田あきつ通信

後援会だより Vol.16

発行/鴨田あきつ後援会
舞鶴市字境谷158
TEL0773-75-0800
mail k.akitsu3@gmail.com

二期目への挑戦を決断しました



平成30年執行の舞鶴市議会議員選挙で初当選させていただき、早いもので一期4年間の任期が今年の12月で終了いたします。

当時は定数26人に対して、34人が立候補する大激戦の選挙でしたが、皆様方に多大なるご支持ご支援を賜り、新人ながら2位当選という結果をいただきました。

さて、任期満了に近づき、私自身の進退を考えると近くなりましたが、地元をはじめ、広く舞鶴市民の皆様から引き続きの要請を多数お寄せいただき、この度二期目の挑戦を決意した次第です。

政治家のための政治ではなく、市民の手となり足となる。言うまでもなくそれが政治家の役割であります。その考えのもと、この4年間、日々市民の皆様からのお声をひろい、課題解決に全力を注ぎました。至らぬ点も多々あったかと存じますが、自分自身が持てる気力体力の全てを市民福祉の向上に注ぎてきたつもりです。

また市長のチェック機能が働いていない議会を変える。その思いで令和3年度には新会派「市民クラブ舞鶴議員団」を立ち上げ、幹事長に就任いたしました。令和4年度には日本維新の会に所属し、活動の幅を広げたところです。

更には私自身も議員になる以前から感じていた、「議員は何をしているかわからない」という疑義を少しでも解消しようと、定例会ごとに「鴨田あきつ通信」を発行し、SNS等でも積極的な発信を心掛け、議会の見える化や透明公正なプロセスに力を注ぎました。

しかしながらまだまだ道半ば。活動を更に加速させ、誇り高さ舞鶴の実現を目指し、改革を実行して参りたいと考えます。

今後とも鴨田あきつ後援会並びに鴨田秋津に対しまして、格別のご支持ご支援賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

令和4年10月吉日 鴨田 秋津

令和4年
9月定例会

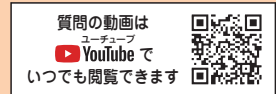
代表質問で市長と直接対決！一方的な答弁に終始

任期最後の定例会でした。会派を代表し代表質問に登壇しました。「市長の政治信念と政治理念について」と「子育て環境日本一について」の2点に絞って質問。市長は「努力が報われる社会の実現」「真の弱者を助けあう社会の実現」「信頼を裏切らず、約束を守り、感謝を忘れず」という政治信条と政治信念を、僅かなぶれもなく真っすぐに貫いていると自説されていますが、この自説される信条と信念が正しく機能しているか。

FMまいづる問題と元国際交流員の問題にかけて質問をしました。

1 市長の政治信念と政治理念について

- (1) FMまいづるの中継局の問題について
- (2) ウズベキスタン共和国の元国際交流員への対応について



■FMまいづるの中継局の問題とは

大浦地区と加佐地区は難聴エリアだったことから、防災上の観点から両地域でFM放送が有線に聞けるよう整備するものでした。しかし有線より無線の方が災害時に強いということで、当初予定していた有線ではなく無線で放送が聞けるよう設計され、無線工事が完了しました(事業総額約1億6,000万円)。しかし工事が完了しても加佐地区でFM放送が聞けないことが判明。追加で約2000万円を支出し、応急的に有線を加佐地区に繋ぎ、一旦有線でFM放送が聞ける状態にした上で、本来の目的である無線で放送が聞けるよう中継局を加佐地区に設置する工事が行われました。しかしながらこの再工事も失敗し、未だに加佐地区で無線による放送が聞けません。これが事業の概要です。



■ウズベキスタン共和国の元国際交流員への対応とは

京都新聞や毎日新聞で報道されました。問題は2つ。一つ目に、今年7月まで5年間国際交流員を務め、帰国したウズベキスタン人男性が市職員から威圧的な対応を受けたなどの被害を、派遣元の自治体国際化協会に訴えていたこと。二つ目の問題点として1月中旬に同協会が提示していた「特例で任期延長が可能」とする通知も、派遣元が要領で本人確認を求めているにもかかわらず、市は本人確認をしないまま、再任用の見送りを判断していたことです。



(1) この問題を昨年から追及しておりますが、失敗の責任は設計会社にはなく、市の管理体制にも問題なく、FMまいづるに責任転嫁するような答弁を繰り返しています。そして令和4年6月定例会の私自身の一般質問における市の答弁には看過できないと、この時の答弁によって、FMまいづるは名誉を著しく棄損されたと、答弁の訂正を求めて市長に申入書を提出しております。失敗を認め、答弁の訂正をしないのか。市長に問いましたが、「訂正はしない」との答弁。それどころか更に分断を広げる答弁を繰り返しました。答弁の間違いを認め、謙虚に謝り、これから真摯に向き合えば、関係改善は望めます。ただ市長にはそれができないのです。

(2) については、「部下に確認したが、威圧的な態度はなかった」と答弁。再任用の通知についても、特例で延長する必要はなく、本人にも事前に伝えてあり、ルールに反したことは全くしていないと答弁。私はこの件を本人から直接詳細に聞き取りしています。上司の威圧的な態度について本人は、「毎日怖くて夜も眠れず、自殺を考えた」と訴えました。彼は「5年間、多くの心優しい舞鶴市民の方々と交流し、ずっと舞鶴のことが大好きだった。しかし、最後の最後に「この国に正義はないと感じた」と述べています。

裏面に続きます。